

中学校 第1学年 社会科授業研究報告

岐阜市立陽南中学校 後藤 良二

1 研究にあたって

(1)はじめに

新学習指導要領中学校社会科の「改善の具体的事項」の中に「地図の読図や作図などの地理的技能を身に付けさせることを一層重視するとともに、身近な地域の調査の学習において、諸課題を解決し地域の発展に貢献しようとする態度を養うことができるようにする」とある。いわゆる地図を有効に活用することで事象を説明したり、自己の認識を論述したりする力が求められていると同時に、地域の調査活動を通して生徒に社会参画の態度を養うことまで求められている。

地図の活用に関しては、今年度、地理的分野はもちろん、教科全体の中で徹底し、これまで以上に意識して指導した。事象に関わる地図上での位置関係を確実に押さえるとともに、地理的分野においては、地形的、自然的要素と人々の生活とを関わりさせる中で、常に地図帳を活用させ、地図に慣れ親しむことを大切にしたい。また、本単元「身近な地域の調査」では、陽南校区の調査活動からわかったことを説明、論述させるだけでなく、今後の陽南校区をよりよい町にしていくために、何が必要で、自分たちには何ができるのかを考察させることにより、生徒が主体的に社会参画をしていこうとする態度を養うことができるような場を位置付けた。

(2)児童生徒の実態

日本や世界の略地図の学習では、描くための基準を明らかにさせることで、生徒が地図の位置関係や形をより明らかにすることができ、略地図を描きやすい、という実感をもつことができた。また、地図帳を常に活用することが定着しつつあり、どの分野に関しても、学習の際には地図帳をもち、分からない地名や地域名は自主的に地図帳で位置を確認したり、その周辺の位置関係を調べたりする姿が見られるようになってきた。

しかし、地図から読み取れる事実からどんなことが考えられそうか、それが人々の生活とどんな結び付きがありそうかまで考察することには弱

さがあるため、事実からわかることを通して、認識を広め深めていく必要があると考えた。

(3)研究内容①②に関わる具体的な手立て

①主体的に地図資料に関わるための学習活動の在り方

・「追究の視点」ごとのつながりを説明、論述させる交流

生徒に自己の認識の広まりや深まりを実感させたい。それは、社会的事象の本質の部分である見えない側面について、根拠をもとに見極め、それが見えてきたとき実感できるものである。そのために、「追究の視点」を設定し、視点ごとの関連を説明させていくことが、見えない側面を見極めることにつながると考えた。「追究の視点」を考察する際の目の付けどころだととらえ、生徒の予想をもとに設定した。これが、生徒に習得した内容と新たな社会的事象とを結び付け、「課題設定」→「仮説」→「検証」→「考察」という流れで追究させることにつながった。視点ごとの相関関係や順序性、発展性を生徒自身に考察させていくために、次のようなポイントで生徒に切り返しの発問をし、生徒の認識を広め、深めた。

それぞれの「追究の視点」について

- ・複数の視点を総合的に考察させる
- ・視点ごとに軽重をつけて考察させる
- ・視点ごとの順序性を考察させる
- ・新たな視点を見いだし考察させる

②地図活用能力・描図能力を伸ばす個に応じた指導・評価の在り方

・学び方を定着させるための「学習の手引き」の活用の工夫

生徒の地図活用能力、描図能力を高めるために、「学習の手引き」をもとにして、確実に地図資料を見る目を育てることを工夫した。生徒にとって、多くの情報源となる地図資料では、何をどう見抜いていけばよいかは漠然とし、見る視点がぼやけてしまうことがある。そこで、地図資料のどんな点を視点として、資料を活用していけばよいかを示した「学習の手引き」を作成し、生徒に示すことで、生徒がつまづいた際には、常に「学習の手引き」に立ち返りながら、自分の考えを創り上げることができると考えた。

2 授業展開(1)

【学年】中学校第1学年

【单元名】「身近な地域の調査」(全12時間)

【単元のねらい】

観察や調査などの活動を通して、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、陽南中校区の建物の多さに着目し、その種類を明らかにして略地図や分布図を作成して、産業や人々の生活、交通の面から陽南中校区の特色がわかる。

【単元の流れ】

- ・地形図の読み取り方(地図記号、方位、縮尺、等高線)を知る。(2時間)
- ・陽南校区の調査をするための課題づくりと調査方法、調査内容の検討をする。(2時間)・・・本時1
- ・実際に陽南校区の調査活動として、校外学習をする。(5時間)
- ・調査結果をもとに、整理、分析して、陽南校区の特徴を交流しよう(2時間)
- ・単元のまとめ(1時間)

【本時のねらい】

岐阜市の地形図から、土地利用の状況を読み取ることを通して、陽南校区は建物が増えている地域であることに気づき、調査活動のテーマを設定することができる。

【授業の流れ】(3/12)

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準
1. 前時までの振り返りをする。 ・地形図を読み取るには、地図記号や等高線を見て、その土地の様子が読み取れることがわかった。 2. 岐阜市の地形図から土地利用に着目し、気付いたことを交流する。 ・岐阜市の北の方は田や畑、山が多いことが分かる。 ・岐阜駅の周辺には建物が多いことがわかる。 ・私たちが住んでいる陽南校区は、岐阜市の南の方に位置していることがわかる。 【課題】岐阜市の中で陽南校区にはどんな特徴があると言えるだろうか 3 陽南校区を中心に、地形図を読み取り、特徴を見つける。 ・岐阜駅の南側(加納西小校区)は特に建物が密集している。駅から離れるにつれ、建物が減り、田や畑が多くなっている。 ・陽南中の東を南北に通る道路を境に、東側は建物が多く、西の方は少ないことがわかる。 4. 1970年頃と現在の航空写真、地形図を比較し、考えを深める。 ・2枚の航空写真を比較すると、建物が多く増えていることがわかる。特に三里校区は、昔は田や畑が多かったけど、今は建物が増えていることがわかる。 ・建物が増えてきているのはわかるけれど、どんな建物が増えているのか、なぜ陽南校区に建物が増えているのかはこれらの資料だけではわからない。その点について実際に調査してみたい。 ・誰もが住みやすい陽南校区にするために自分たちで地域を見つめ、よりよい町づくりを考えてみたい。 5. ここまでの学習から、調査学習のテーマを設定する。 ・地形図や航空写真からはわからないことを、実際に調査に出かけて調べ、よりよい陽南校区にするために何が必要か見つめたい。 陽南校区の変容を調べ、今後の町づくりを考えよう 6. 自己の高まりを実感する。 岐阜市の北の方と比較して、陽南校区は建物が多い地域であることがわかった。特に岐阜駅の南側(加納西校区)は建物が密集しているし、駅の南西(三里校区)は昔に比べてすごく建物が増えていることがわかった。それはなぜなのか、実際に調査に出かけて調べてみたいと思った。	○岐阜市全図 ・岐阜市の中の様々な場所と比較することで、陽南校区の特徴に気付かせる。 ・土地利用に加え、道路の幅や通り方にも着目させる。 ○二枚の航空写真と地形図 ・地形図を見て気付いたことと、航空写真からわかることをつなげ、より確かな事実をつかませる。 ○地形図と航空写真からわかることと、わからないことをはっきりさせる。」 【3, 4の場面】 * 地形図や航空写真からではわからないことがあることを認識させ、調査活動の意味づけと意欲をもたせる。 ◎本時の評価規準 (興味・関心) 陽南校区の特徴に関心をもち、進んで追究しようとしている。 【評価方法】 ノートの記述内容と発言内容、学習カードへの記述

2 授業展開(2)

【学年】中学校第1学年

【单元名】「身近な地域の調査」(全12時間)

【単元のねらい】

観察や調査などの活動を通して、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、陽南中校区の建物の多さに着目し、その種類を明らかにして略地図や分布図を作成して、産業や人々の生活、交通の面から陽南中校区の特色がわかる。

【単元の流れ】

- ・地形図を読み取り方(地図記号、方位、縮尺、等高線)を知る。(2時間)
- ・陽南校区の調査をするための課題づくりと調査方法、調査内容の検討をする。(2時間)
- ・実際に陽南校区の調査活動として、校外学習をする。(5時間)
- ・調査結果をもとに、整理、分析して、陽南校区の特徴を交流しよう(2時間)・・・本時2
- ・単元のまとめ(1時間)

【本時のねらい】

観察結果や統計資料などを地図化したり、グラフ化したりすることで、調査結果を整理して結論をまとめることができる。

【授業の流れ】(10, 11/12)

学 習 活 動		指導上の留意点 ◎評価規準
1. 前時までの振り返りをする。 ・調査を通して、いろいろなことがわかった。それを整理して、結論を明らかにしたい。 調査を通して明らかになったことを、整理・分析してまとめよう		○陽南校区の住宅地図 ○デジカメの写真 ○取材メモ ○グラフのつくり方 (教P60)
2. 班ごとに調査結果を整理・分析する方法を知り、まとめを行う。 ・陽南校区に建物が増えているのは、岐阜駅に近く、他の地域とつながる大きな道路が通っている。交通網が発達していることから、通勤・通学に便利で、生活しやすいからであることがわかった。 ・調査してきたことをわかりやすくまとめ、交流の資料にしよう。 例：【グラフのつくり方】を使って ・岐阜市の人口の増加率と、陽南校区の人口増加率をグラフで表す。 例：【統計地図のつくり方】を使って ・住宅が密集している地域を地図上に表現し、加納西校区だけでなく、三里校区にもそれが広がっていることを明らかにする。 例：【パンフレットのつくり方】を使って ・立地条件を生かし、建物が増えている校区を紹介するパンフレットを作成する。 例：【イラストマップのまとめ方】を使って ・岐阜駅の南、小中学校や高校が近いこと、様々な店があることを表現する。		○統計地図のつくり方 (教P61) ○イラストマップのまとめ方 (教P62) ○パンフレットのつくり方 (教P63) ○まとめの際には、作成した校区の地図を有効に活用させるようにする。 ○これからの陽南校区はどうなっていくか、どんな陽南校区にしたいか考えさせる。
3. 今後の陽南校区はどうなっていくか、またどんな陽南校区にしたいか考え、自分たちには何ができるかを、班ごとに意見交流する。 ・建物が密集している加納西校区と、これからさきもっと建物が増えそうな三里校区から成るのがこの陽南校区だ。岐阜駅が近く、生活するのに便利な校区なので、きっとこれかうと思う。その分、田や畑が減ったり、緑が減ったりして環境が悪くても建物が増え、人口も増加していくだろ化していくことも考えられる。私たちにできることはないか考えていきたい。 ・岐阜市内を見ても、建物が密集し、多くの人が集まる陽南校区だと思う。これから先、人口がもっと増えても、誰もが安心して暮らせる地域にしていきたい。そのためには、となりの人や近所の人と仲のよい地域にしていきたい。		【3の場面】 ○校区に暮らす一員として社会を形成する一人として自分たちになにができるかを考えさせ、発表会で自分の考えを交えながら論述できるようにさせる。
4. 自己の高まりを実感する。 課題解決に向けて、地図を使ってまとめることができた。これからの陽南校区はきつともっと建物が増えて発展していくと思うけど、人とのつながりを大切にして、誰もが安心して暮らせる陽南校区にしていきたいと思った。物も心も発展した地域にしたいと自分は思う。		◎本時の評価規準 【評価規準】(資料活用・表現) 観察結果や統計資料などを地図化、グラフ化したり、自分の考えを交えたりしながら、整理してまとめている。 【評価方法】 班交流の内容、まとめの資料、原稿の内容

3 実践のまとめ

(1) 個に応じた指導・評価(Aさん)

授業展開 1 では、岐阜市の地形図と航空写真を活用して、陽南校区を中心とした地域の特徴をつかむ活動を行った。地形図を読み取る際には、生徒一人ひとりが付箋を用い、地図記号で特徴が分かる部分や、地形図から分かる地域の特徴を掴むことができる部分にメモをしながら貼り付けさせた。また、学習の手引きを活用させながら、自分にとって必要な情報を手引きから入手する学習を位置付けた。授業の導入時には地形図を眺めながらどこからどんな特徴を考えればよいのかとまどっていたAさんが、付箋が増えていくにつれ、自らの学習成果が足跡となって残っていることへの満足感と、そのメモをもとに根拠を明確にして自分の考えを創り上げることができた。

また、地形図と航空写真を比較し、考えを深めさせていく場面では、1970年代の航空写真と1990年代2000年代のそれぞれの航空写真を比較させ、「交通網の発達」「土地利用の変化」「建物の増加」といった視点で追究させた。それぞれの追究の視点から考察させる中で、追究の視点ごとのつながりを説明、論述させることで、Aさんの課題に対する考察の中で、はじめは見えなかった側面が、次第に明らかになっていく様相が見られた。その中で、地形図や航空写真でそれぞれの追究の視点に関わる考察や予想が明らかになるにつれ、どうしても解決できないことが出てきた。そこで、学習の出口では次のような感想を述べた。

交通網の発達によって建物がその周辺部で広がってきたことは分かった。特に、岐阜駅周辺や国道 21 号線の周辺、4 車線道路などの周辺では急激に増加し、地域の南西部にどんどん広がってきている。以前は水田などで利用されていた三里地区でも、現在は大半が建物に利用され、水田はほとんどなくなりつつある。しかし、地形図や航空写真では建物の増加や土地利用の変化は分かっても、その建物が何で、交通網との関係がどうあるのかを考えることはできないので、実際の目で調査をしてはっきりさせたいと思った。

生徒はAさんのような疑問をはじめ、それぞれが学習の中で疑問にもったことをもとに、グルー

プごとに学習課題を設定し、調査活動を行った。また、調査活動の中でわかったことや交流したことを新聞形式やマップ形式でまとめる学習を位置付け、整理・分析してまとめる活動を行った。

(2) 児童生徒の変容(Aさん)

自ら設定した課題に対して調査活動を終えた、Aさんは次のような振り返りをしている。

岐阜駅や大きな道路の周囲では、どのような建物が多いのか、地域の特徴を調べました。私の予想では人々の移動などが便利のように住宅やマンションが多くあると思っていましたが、実際に現地で確かめてみると思った以上に商店などが多かったことがわかりました。大きな道路沿いには遠くからでも見えるように大きな看板や目立つ店のつくりがしてあったり、駐車場を大きく取っているところがあり、これが大きな道路沿いや駅周辺の特徴だと思いました。また、商店の近くを調査していると、大きなトラックなどが出入りしている場面をいくつも見ました。これは小さな通りや入り組んだ場所ではなかなか出入りできないものだと思います。それだけに、駅周辺や大通り周辺の商店などに使われている土地利用の特徴を知ることができたと思います。

(3) 成果と課題、課題解決の方途

- ・課題に対する予想から、「追究の視点」を明確にして課題追究させたり、社会的事象の意味や関連を、根拠を明確にして説明、論述させたりしたことで、前時までに習得した知識、概念をもとに根拠を明確にして語ったり、それらを再認識したりする生徒が増えた。
- ・地形図の読み方などの「学習の手引き」を活用させたり、岐阜市の地形図を活用する際に、付箋を使って地域の特徴をつかむ際の足場にさせたりしたことで、地形図に対する興味、関心を高め、地図活用能力を高めることにつなげることができた。
- ・単元の学習を通してわかったことや、自ら調べたことについて、学習成果を確かめる場で描図能力を生かしながらマップづくりをしたり、単元のまとめをしたりする活動を充実させていく必要がある。そのために、どんな内容を単元のまとめとして表現していけばよいのか、生徒が思考の流れをどのように焦点化していけばよいのかを明確にさせていきたい。

4. 参考資料

【資料1】岐阜市の地形図「5万分の1」を使って、岐阜市全体の特徴をつかんでいく。＜授業の様子＞

付箋を活用し、地図記号で特徴がつかめるもの、地形的な特徴がつかめるものを記録していく。



【資料2】学習の手引き「※一部抜粋」

社会科学習の手引き

～地形図の見方～

課題に対する見方や考え方が、
自分の考え方を広め・深
めていこう

地形図は、実際の地形や土地利用、建築物など様々な情報が、地図の約束事によって、描かれています。下に示した地図は岐阜市の地形図です。

☆地形図の読み方☆

①地形図の縮尺を確認する

その地図が、実際の大きさと比べ、どれほど小さくまとめられたかを示すのが縮尺です。右上の図には、 $1:50,000$ とありますが、これを5万分の1と読みます。その意味は、実際のものを5万分の1に縮めているということを示し、この地図で示された1cmは、実際の50,000cm(500m)を表しています。

②地形の特色をよむ

ア：等高線を読む

- ・地図上の同じ高さの地点を結んだ線。
- ・山などの高さを表す。

イ：自然の地形を読む

- ・山のふもと、川沿いに道路が通る。
- ・川がどちらの方向に流れているか。

ウ：土地利用の特色を読む

- ・駅の周辺には、住宅が密集している。
- ・大きな道路に沿うように、工場が建ち並んでいる。

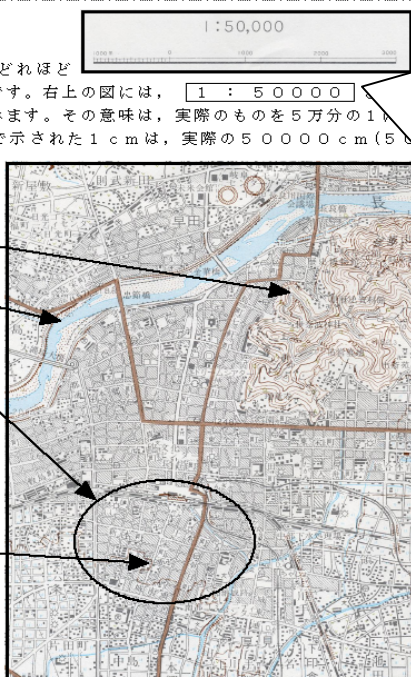
エ：地形と土地利用との関係をつかむ

- ・山の南斜面を利用して、果樹園が広がっている。

オ：地域の発展を読む

- ・岐阜城のふもとや加納城跡の周辺には住宅が密集している。城下町の広まりと関わりがありそうだ。
- ・古い地図と比較すると、○○工場は、昔はたんぼとして利用されたところに建設された。

③実際の写真と地形図を比較して読む

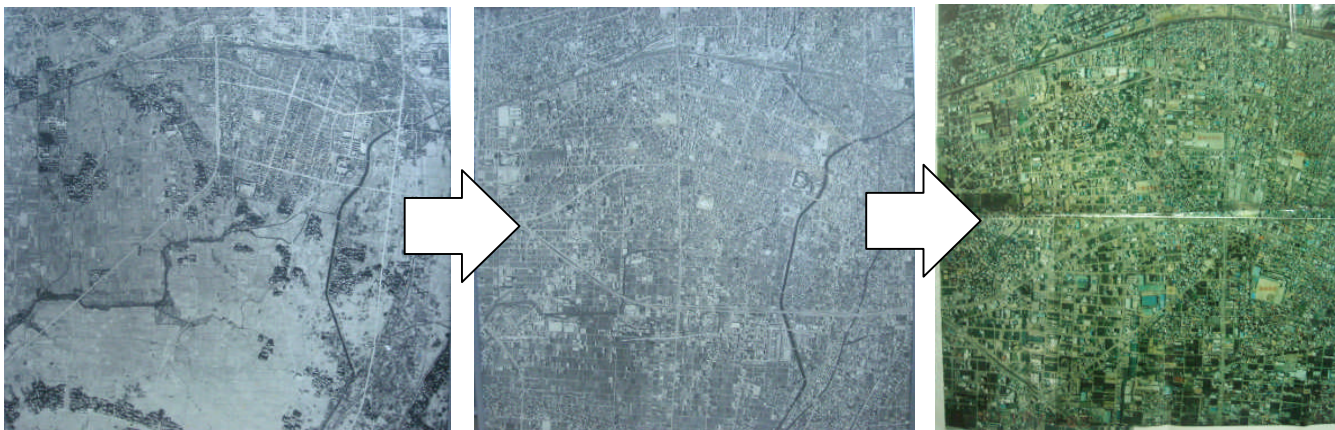


授業の中で活用する「学習の手引き」

地図の見方や地形図の見方、地図とグラフを関わらせてみる見方など、一年生の生徒にとって、基礎的・基本的な資料活用の技能を養っていくために、どのように資料を見たり、どんな目のつけどころを大切にしたりすればよいのかを示した手引き。

生徒は必要に応じて、自分の学習に必要な学習の手引きを活用しながら、自分の考えをもったり、仲間の考えがどのようにつくられたのかを明らかにしていく。

【資料3】陽南校区を中心とした航空写真<左から1970年代→1990年代→2000年代>

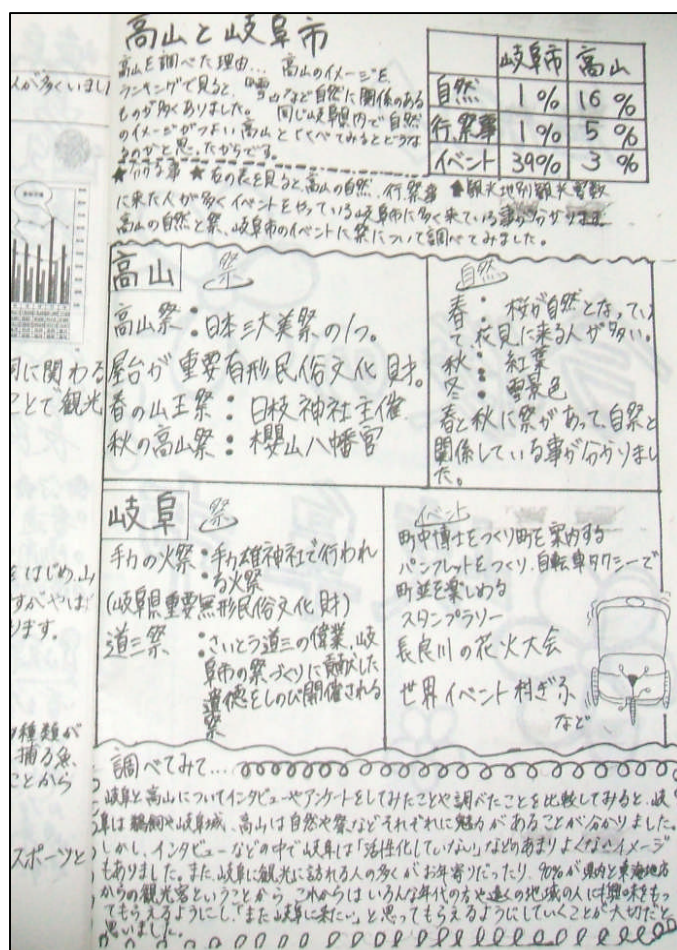


【資料4】航空写真の比較から地域の様子の移り変わりを比較し交流する授業の様子



【資料5】身近な地域を学習し、自ら課題を設定して追究した生徒の新聞＜発展的な学習の位置付け＞

「※一部抜粋」



中学校 第2学年 社会科授業研究報告

笠松町立笠松中学校 竹田 宣博

1 研究にあたって

(1)はじめに

分布図研究会の研究実践三年目を迎える。昨年度までは、「身近な地域」の教材をもとに、地形図の読み取りや新旧比較、追究してきたことをもとにテーマを決め、レポートにまとめる学習を展開してきた。

学習活動の中で、指導・援助として補助資料を活用したり、活動の見通しをもたせ、個に応じた具体的な投げかけをしたりしてきた。それにより、生徒主体による追究活動となり、資料を読み取る力、図案を考えてまとめる力、対照的に見る見方・まとめ方が身に付いてきた。

今年度は、「世界の国々の調査」の一事例として、「世界との結びつきを強めるフランス」を取り上げ、比較・関連の視点から追究していく学習活動を展開していくこととする。

新学習指導要領が出され、「世界の諸地域」については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させることがねらいである。ヨーロッパについては、主題例として、「EUの発展と地域差」とし、EU加盟国では、政治・経済的結合が人々の生活にどのような影響を与えているかという問いをたて、地域的特色を理解していくように明記されている。

こうしたことを踏まえ、今回の実践においては、次のような指導計画をもとに行っていく。

【指導計画の概要】

- ①生活経験や主題図をもとに、単元の見通しをもたせ、単元を貫く課題を設定する。
- ②観光客数、労働者の移動、農業、工業、EUの歩みの視点から、フランスと周辺諸国の結びつきをとらえる。
- ③②で学習してきたことを関連させてマップを作成し、周辺諸国との結びつきについてまとめる。

(2)児童生徒の実態

「多様なすがたをもつアメリカ」では、気候と人口分布の主題図をトレーシングペーパーでトレースし、重ね合わせたり、雨温図と農業分布の広がりに関連させたりしてアメリカの人口分布や農業の特色をとらえることができるようになってきた。また、自主学習において、ノートにアメリカの国土を描図し、農業や工業、貿易にかかわる学習をまとめることができるようになってきた。

アメリカの学習後、「世界一の人口をもつ中国」では、世界一の人口を支える産業について追究し、アメリカの農業や工業、貿易と比較したり関連させたりして考えていくことができるようになってきた。

(3)研究内容①②に関わる具体的な手だて

フランスの学習では、「比較」・「関連」の視点から、「世界との結びつき」をとらえることができるような手だてをもつ必要がある。

- ①主題図や地図をもとに、世界またはヨーロッパにおけるフランスの位置をとらえるようにする。

主題図においては、円グラフの大きさと数値、地図においては、ヨーロッパにおけるフランスの地理的位置に着目させることで、観光客数が多いこと、農業がさかんであること、ヨーロッパの中心に位置し、周辺諸国と交通網で繋がっていることが捉えられるようにする。

- ②比較・関連させる社会的事象を絞り込み、マップにまとめるようにする。

指導計画②の中から、どのような視点でどのように表すとよいのかをはっきりとさせて見通しをもってまとめることができるようにする。

2 授業展開

【学年】中学校第2学年

【単元名】比較や関連の視点から調べよう 「世界との結びつきを強めるフランス」(全8時間)

【単元のねらい】

産業がさかんで世界の人々を引きつける魅力をもつ文化施設が豊富なフランスが、EU を立ち上げ経済的・政治的な面でヨーロッパ諸国が協力しあう関係を築くことで、EU 全体で日本やアメリカ合衆国に対抗できる経済力をつけようとしていることが分かる。

【単元の流れ】

- ・フランスはどのような特色をもった国なのだろう (実践事例1) (1時間)
- ・なぜフランスに世界中から人々が集まるのだろうか (1時間)
- ・なぜフランスは、北海道より高緯度なのに農業生産がさかんなのだろう (1時間)
- ・なぜフランスは、航空機生産を EU 諸国と共同で行うのだろうか (1時間)
- ・なぜフランスは、歴史的に戦争で戦った国と共同体を築き、EU に加盟しているのだろうか (1時間)
- ・フランスの地域的特色について地図にまとめよう (実践事例2) (2時間)
- ・これからの EU について考えよう (1時間)

《実践事例1》

【本時のねらい】

フランスのあらましや主題図をもとに、単元を貫く課題を設定することができる。

【授業の流れ】(1/8)

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準
1 フランスについて知っていること、あらましを交流する。 ・凱旋門やベルサイユ宮殿等文化遺産が有名である。 ・フランスは、ヨーロッパの中心に位置し、多くの国と接している。 ・面積はヨーロッパでは一番である。 【課題】 フランスはどのような特色をもった国なのだろう	◇ヨーロッパ州の地図
2 主題図や諸資料から特色を読み取り、交流する。 ・小麦の生産が世界では5位、ヨーロッパでは1位である。 ・チーズの生産量は、世界3位、ヨーロッパでは2位である。 ・自動車の生産が世界では6位、ヨーロッパでは2位である。 ・農業や工業の生産量が多いことから、産業がさかんな国である。 ・観光客数が世界一であることから、世界の人々を引きつける魅力がある。 ・東ヨーロッパやトルコ、地中海に面した北アフリカの国々から外国人労働者として流入している。 ・EC の頃から他のヨーロッパの国々と共同体を組み、現在EUに加盟している。	◇小麦生産量 ◇チーズの生産量 ◇自動車生産台数 ◇主な国の観光客数 ◇ヨーロッパに流入する外国人労働者数 ※円グラフの大きさや数値をもとに具体的にどれだけ違うかを比べることで、世界またはヨーロッパ州におけるフランスの位置に着目できるようにする。
3 単元を貫く課題を設定する。 EU 中のフランスは、周辺諸国とどのような結びつきをもっているのだろうか。	◎本時の評価規準 フランスのあらましや特色について、意欲的に追究しようとしている。 <関心・意欲・態度>

《実践事例2》

【本時のねらい】

フランスと他地域との結びつきをテーマに、これまで学習したことを関連づけてマップにまとめることができる。

【授業の流れ】（6／8）

学 習 活 動	指導上の留意点 ◎評価規準
1 これまで学習してきたことを振り返り、自分のテーマを決める。 ・ EU の学習で航空機生産のところで周辺諸国と共同生産していることを学んだ。また、それに伴う貿易のことを付け加えてまとめてみようかな。 ・ 外国人労働者は、自国よりも豊かな所得を求めてやってきていることを学んだ。産業と関連させてまとめようかな。 【課題】 フランスと他地域との結びつきについて、2つの視点を関連させてマップにしてみよう。 2 マップにする上で、どんなことに気をつけて表現するとよいかを交流する。 ・ フランスと周辺諸国の関係を表すには、フランスとその周りの国土を描くことから始めないといけない。曲線があるので、正しく描くためにはカーボン紙を使ってなぞる。 ・ 統計資料に関する凡例を作り、高い数値は暖色、低い数値は寒色にし、色を決めて丁寧に塗る。 ・ 結びつきが分かるようにするために、国と国の関係を矢印で結んだり、記号を作ったりして表す。 ・ 貿易額の違いを表すために、棒グラフに表して違いが分かるようにする。 ・ 地図を大きく描いて一つの視点について表した場合は、トレーシングペーパーで上からもう一つの視点についてまとめたものを重ね合わせればよい。 3 テーマに基づく資料を活用し、構成を考えてマップを作る。 ＜主なテーマ＞ ・ EU と工業生産 ・ 労働者の移動と所得の関係 ・ 文化と観光客数 ・ フランスの気候と農業 ほか	・ これまで学習してきた観光、農業、工業、交通網、外国人労働者、EU の中から、2つの事象を関連させてマップにすることを確認する。 ・ 略地図やグラフの作り方については、既習内容を振り返り、どんなことに気をつけて描くとよいかを確認する。 ・ カーボン紙を使って描図している様子 【資料1】 ・ 凡例を決めて、着色している様子 【資料2】 ・ EU と航空機生産を関連させてまとめたマップ 【資料3】 ・ 労働者の移動と所得の関係を関連させてまとめたマップ 【資料4】 ◎本時の評価規準 学習してきたことをもとにテーマを決め、2つの事象を関連させてマップに表している。 ＜資料活用の技能・表現＞

3 実践のまとめ

(1) 個に応じた指導・評価(Aさん)

①主題図や地図をもとに、世界またはヨーロッパにおけるフランスの位置を捉えるようにする。

フランスの地理的位置を捉えるために、まずヨーロッパ州の地図を提示した。その際、どの国と接しているのかを調べることにした。ドイツやスイスとは国境線で接していることにはすぐ気付くことはできた。そこで、「海を越えて接している国はないか」と問うことにした。すると、イギリスとは鉄道で繋がっていることや地中海を越えると、アフリカ州の国々があることに気付くことができた。また、ヨーロッパの国々の中における面積や人口を比べるときは、他の国の何倍、あるいは日本の何倍かを話させるようにし、具体的な数値に着目しながら比べることができるように促した。

②比較・関連させる社会的事象を絞り込み、マップにまとめるようにする。

EU と航空機生産のことをテーマにマップを作ることを決め、どのように表すとよいかで悩んでいた。

そこで、これまでの学習で活用した資料から活かせないかと一緒に航空機生産について学習した教科書の図を見直すことにした。しかし、航空機のどの部分がどの国かについては示されているが、つながりを表すには活かすことができないと考えた。

フランスと関係諸国とのつながりを示す資料はないかと次に、地図帳に EU と航空機生産のことがないかを確かめることにした。すると、工業の分野についての資料があり、航空機に関する凡例もあった。組み立てと胴体、つばさとマークを作れば分かりやすいことや地図上に関係する国とフランスのつながりが分かるような地図を描けばよいと考えた。

EU で生産することの利点を表すためには、貿易額の棒グラフを活用し、違いが分かるようにすればよいのではないかと促した。

(2) 児童生徒の変容(Aさん)

フランスのあらましから、農業、工業、EU を学習し、航空機生産と EU についてまとめることにした。まず地図を描くときは、海岸線や国境線を正しく描きたいため、カーボン紙を活用して、丁寧に描図した。その上で、組み立て、胴体、翼、パイプラインの凡例を決め、矢印や線でつながりが分かるようにした。

また、隣接する EU の国々と共同で作る理由を技術・資源の共有、コスト削減、交通網の発達からまとめることができた。

その上で、EU で行うことが日本やアメリカに勝てる経済力をもつことにつながるという単元での出口に至る結論を導くことができた。

始めはファッションや料理、ワインといったイメージでいたが、産業が盛んな理由を自然的条件や社会的条件と関連させ、さらにはアメリカや日本という経済的にも力のある国と比較させたまとめをすることができ、フランスの産業のすごさや、EU という地域統合のよさを感じることができるようになった。

(3) 成果と課題、課題解決の方途

○地図や統計資料を読み取るときに、どんなことに気付かせたいかを明らかにして行うことができた。ただ単に多い、少ない、狭い、広いという端的、抽象的な発言から、具体的に比較して考える生徒を育てていくことが大切であると考えた。

○マップを作成するときに、事前に見通しを持たせることが、丁寧なマップ作りにつながった。特に、凡例の作り方や地図の描図が大切である。カーボン紙や地図帳の活用が大きい。

▲EU と関連させて産業について多くの生徒がまとめていた。EU に関する問題点や今後の展望というところまで踏み込んだマップづくりができると未来を見据えた見方が育つと考える。

4 参考資料

【資料1】カーボン紙を使って描図している様子



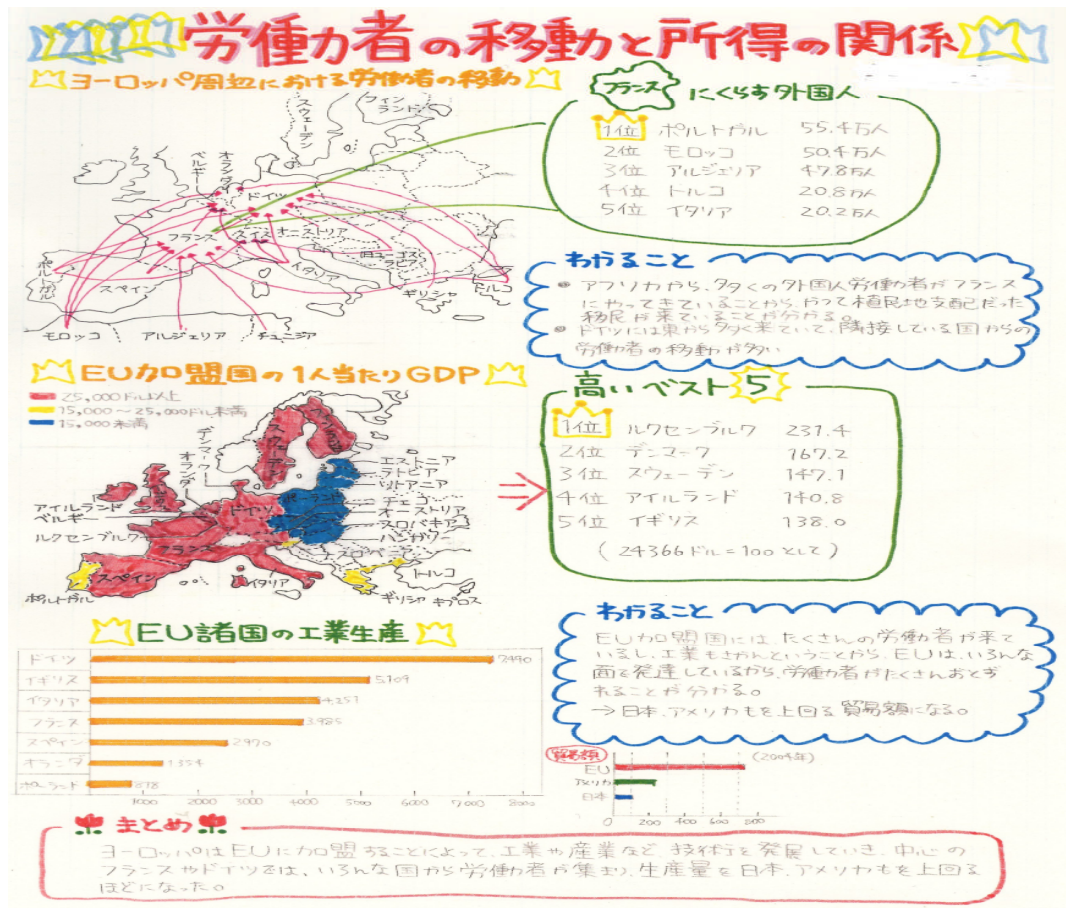
【資料2】凡例を決めて、着色している様子



【資料3】EUと航空機生産を関連させてまとめたマップ



【資料4】労働者の移動と所得の関係を関連させてまとめたマップ



中学校 第3学年 社会科授業研究報告

羽島市立中央中学校 平松俊英

1 研究にあたって

(1)はじめに

1 年生で実施した地理的分野 (2) 日本の様々な地域 エ「身近な地域の調査」の学習では、羽島市中央中校区の交通網や土地利用の様子を 1/25,000 の地形図からつかみ、その後、校区内の観察や調査活動を通して地域的特色をとらえた。

本単元、公民的分野 (3) わたしたちと政治 イ民主政治と政治参加における「地方の政治と自治」の学習は3年生で実施する。前述の身近な地域の調査の学習が既習内容として、羽島市を題材にした地方自治の学習に生きてくると考えられる。

本単元に関わって、学習指導要領 (H20.9) では以下の目標が示されている。

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。

また、内容の取扱い(ア)調査や見学などを通して具体的に理解させることと記されている。

生徒は6月に羽島市議会の傍聴を行った。会議では、市議会議員が市長や行政機関に対して質問や意見を述べ、それに対して答弁をする場面を見学した。羽島市南部の環境クリーンセンターの活用状況、北部と南部の都市開発等、地域的特色が色濃く見られた議会であった。また、市議会議員の方々が、羽島市全体を俯瞰して市全体からの立場、それぞれの地域の代表者としての立場など、さまざまな立場や要因が重なって市の課題が生まれていることを感じた。

羽島市の地方自治の学習を通して、市議会と市長を中心とした行政が、住民のために地方自治を進めていることを、「羽島市全体の歴史的歩み」、「各地域からの要望」、「住民活動」、「各年齢からの立場や考え」、「社会状況や背景」等の、地域的特色の視点からとらえさせたい。そして、それらが相互に関連し合って地方自治の活動が行われており、地域住民として住民の積極的な参加が重要であることに気付かせたい。また、地図や分布図の活用、地図化の工夫を柱にして、地域的特色をとらえる視点や方法の習得も重視していきたい。

(2)児童生徒の実態

地理的分野、歴史的分野における地図の活用や地域の特色について、県学習状況調査やアンケート等から実態を調査した。

① 県学習状況調査 (H20 年度の正答率%)

- ・フランス地形図の読取り…72% (県平均比+6%)
- ・気温や降水量から日本の気候の地域差…50% (県平均比+12%)
- ・都道府県の位置 …56% (県平均比-1%)
- ・中国の貿易の特色をグラフから判断 …59% (県平均比+0%)
- ・マレーシアの人々の様子の課題づくり…53% (県平均比-21%)
- ・中国の人口抑制を説明 …53% (県平均比-21%)

② 地図・分布図を活用した学習の感想

- ・交通、農作物、工業生産等、どこに、何が、どのくらいあるのか、地図・分布図を使うと分かりやすい。
- ・地図・分布図の読取りができるようになり、面白い。
- ・発表で地図・分布図を使うと一目で分かり、発表しやす

い。また聴きやすい。

- ・文章で書くよりも自分の意見を示しやすい。

③ 課題

- ・課題追究のために、必要な地図や分布図の選択や作図をすることが難しい。
- ・課題追究のために地図や分布図を活用して、論理的に説明することが苦手である。

1, 2 年生の地理的分野の学習では、日本や世界の地域的特色をつかむために、地図や分布図等を活用した。歴史的分野の学習では、歴史的な事象や事件、歴史的建造物等の位置や社会的影響の広がり等を、地図を使って確認した。3 年生の公民的分野「人間の尊重と日本国憲法」の学習 (大阪空港訴訟、長崎市長襲撃事件など) では、社会的な事象に関わる位置や社会的影響の広がりを地図で確認した。

本単元「現代の民主政治と社会」では、国会や国の行政機関、最高裁判所など国の中枢機関が、東京都の都心部に集中し、政治の中心であることを確認した。そして、地方自治の学習では、「身近な地域」で学んだ羽島市の地形や土地利用を活用して、都市化の方向や交通網の広がり、地域の自治的活動等、地方自治について学ぶ。

(3)研究内容に関わる具体的な手立て

- ・主体的に地図資料にかかわるための学習活動の在り方
- ・地図活用能力・描写能力をのばす個に応じた指導・評価の在り方の工夫

以下の2点から研究実践する。

① 基礎的・基本的な知識や技能を定着させ、地図を活用させるための指導

社会科の4観点【①関心・意欲、②知識・理解、③資料活用・技能表現、④思考・判断】から、単元における単位時間の役割や位置付けを行う。【資料活用・技能表現】に焦点をあてた授業では、各種資料や地図を読取ったり、課題追究の根拠として説明したりすることに重点をおいて指導する。

本単元「現代の民主政治と社会」の学習では、まず地方自治の活動の一例として、琵琶湖の環境保全を取り上げる。ここでは、近畿地方の土地利用図から、都市部の広がりや交通網から琵琶湖の環境悪化の影響の大きさをとらえさせる。次に、羽島市住民として身近な地方自治を学ばせる。羽島市の地形や土地利用を地図や都市計画図を概観させる。そして、岐阜県の市町村合併状況、羽島市総合計画や住民アンケート、羽島市の予算、市政懇談会報告等を地図や資料を使い、「地方分権によって、羽島市はどのような政策がすすめられているのだろう。」と課題を設定して羽島市の政策を追究させる。

② 社会事象の意味やかかわりを明確にしたり、人々の生き方を考えたりする指導

課題追究学習では、大まかに次のような流れで指導する〔①課題設定②課題追究の見通し③個人追究④小集団交流、全体交流⑤学習のまとめと個人の振り返り〕。小集団・全体交流では、課題追究の根拠となる地図や諸資料を提示しながら話すことや、具体的な事実や自分の言葉で説明したりすることを大切にさせる。

2 授業展開

【学年】中学校第3学年

【単元名】現代の民主政治と社会「地方の政治と自治」（全15時間）

【単元のねらい】

民主政治を推進するためには、公正な世論の形成と国民の政治参加が大切であることがわかる。また、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組みについて理解し、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや法に基づく公正な裁判の保障があることを理解する。

【単元の流れ】

- ・人々の意見を政治に生かす（1時間）・・・【本時1】
- ・民主主義とは・選挙のしくみと課題・政治参加と世論（2～4時間）
- ・政党と政治・議会制民主主義と国会のはたらき（5～7時間）
- ・行政と内閣・現代の行政（8，9時間）
- ・法を守る裁判所・裁判の種類と人権・三件の抑制と均衡（10～12時間）
- ・わたしたちと地方自治（13時間）・地方分権と住民参加（14時間）・・・【本時2】
- ・単元のまとめ（15時間）

【本時のねらい】

政治に対する願いや要望を話し合うことを通して、政治と国民の生活のかかわりに関心をもち、単元を貫く課題を設定することができる。

【授業の流れ】（1／15）

学 習 活 動	指導上の留意点
1 滋賀県の琵琶湖の環境問題について、資料をみて交流しよう。 ・滋賀県には、日本1大きい琵琶湖があるが、高度経済成長期を経て1977年には大量の「あおこ」や「赤潮」が発生して、魚介類に大きな影響を与えるようになった。 ・滋賀県の人々は、琵琶湖の環境を守るためにさまざまな取り組みを進めてきた。 2 本時の課題を確認する。 【課題】滋賀県では、琵琶湖の環境を守るために、どのような取り組みを進めたのだろう。 3 課題に対し追究し、全体で交流する。 ・琵琶湖の富栄養化に対して、有りん合成洗剤をやめようとする声が広がり、市民運動となって、そこから琵琶湖の環境問題の取組へと高まっていった。1979年、滋賀県は琵琶湖富栄養化防止条例を制定し、県全体の活動を進めた。 ・住民一人一人の願いが政治に生かされたからこそ、企業や団体までも一丸となって取り組む県全体の動きをつくりあげることができた。 4 身近な生活の中で「人々は政治にどんな願いをもっているか。」を交流し、単元を貫く課題をつかむ。 ・誰もが豊かな暮らしができるようにしてほしい。（便利・快適・環境など） ・平等な社会を目指し、一人一人の意見を政治に反映してほしい。 ・健康で文化的、そして安心して生活できる社会にしてほしい。 ・そのために、道路や鉄道等交通の整備、公園、文化施設、緑化整備、警察や消防、治水などの安全対策、祭りやイベント等の活気のある街づくり・企業誘致や産業の活性化や雇用対策など、政治に対して様々な要望がある。 【単元を貫く課題】より豊かな生活を実現させるためには、国や地方の政治にどのように参加していけばよいのだろうか 5 本時のまとめをする。 ・県や市などの地方公共団体では、地域住民の要望に応えるために、生活に結びついた様々な仕事を行っている。羽島市ではどんなことを行っているのだろう。 ・国や地方の政治では、道路や橋をつくったり、学校や図書館などの施設を設置したり、福祉、地域経済の発展、環境を守ること等の仕事を行っている。わたしたちの願いと政治は密接に関係しているのだ。 ・国や地方の政治は、どのような仕組みで、どのように行われているのか、調べてみたい。	・近畿地方の地図【資料1】 ・滋賀県のポスター ・琵琶湖の水質改善に取り組む住民 ・琵琶湖富栄養化防止条例【資料2】 ・条例に実施を知らせる垂れ幕 ・国民が政治に期待すること ・まちの将来像について（新しいまちづくりアンケート 平成15年6月の羽島市） 評価規準 滋賀県の琵琶湖の環境保全の活動を通して、国や地方公共団体の政治と国民や住民とのかかわりについて関心をもち、住民が期待する政治について考えようとしている。 【関心・意欲】

【本時のねらい】

地方自治体（羽島市）の政治は、市長を中心とする行政機関と議員によって構成される議会の二つの機関を通して、住民の意思を直接反映するしくみであることがわかり、住民として積極的に地方政治に参加することが地方自治を守り、強いては住民の権利をも守り、豊かな生活を保障することがわかる。

【授業の流れ】（14／15）

学 習 活 動	指導上の留意点
1 前時の振り返りをし、本時の課題をつかむ。 - 地方自治体の政治は、首長を中心とする行政機関と地方議会によって決定される。国の政治のしくみを小さくしたようなものだ。 1999 年、地方分権を実現していくための関連法案が出された。地方自治体に合わせた独自の政策ができるようになった。 - 他の市町村では財政対策もあって合併を進めてきたが、岐阜市と合併をしなかった羽島市は、どのように政策をおこなっているのか調べたい。 【課題】地方分権によって、羽島市はどのような政策がすすめられるようになったのだろう。	- 地方公共団体の執行機関と議会の関係（教科書） - 地方自治とは？ -学校に見る地方自治- (公民資料集) - 岐阜県内の合併状況【資料 3】
2 課題に対して様々な資料から追究し、全体で交流する。 【羽島市施策の方針】 - 少子高齢化の波が羽島市にもおしよせ、厳しい財政状況の中で、財政の健全化が強く求められている。 - 重点施策の「自立した元気なまち・羽島」につながる「将来に向けての都市基盤整備」や「子育て環境の充実」等に重点をおいた予算編成を行っている。 【地方財政】 - 羽島市では、平成 16 年度、市債残高 214 億 3000 万円が、平成 20 年度には、180 億 1500 万円となり、4 年間で 34 億 1500 万円減少させた。 - 羽島市の予算総額は約 408 億円で、国民健康保険や老人保健・介護保険などの福祉関係、上下水道事業、駅やインター周辺の区画整理事業の生活に直接かかわる事業に対して、お金をたくさん使っている。 - 歳入では、市税等の自主財源が 6 割、残りの 4 割は地方交付税や国庫支出金、市債などの依存財源となっている。 - 歳出では、職員数を減らして人件費を 8261 万円減らしている。反対に社会保障関係費を 2 億 2800 万円増加している。また、学校の耐震補強に 4 億 7000 万円増の 21 億 8000 万円となった。 【施策の独自性】 - このように、羽島市では市債を返還したり、職員数を削減したりして、財政の立て直しを図り、将来に不安を残さないようにしているのだ。 - 人口ピラミッドの 60～64 歳の人口が一番多いことからわかるように、羽島市は高齢社会になり、社会保障関係費等福祉の充実を図っていく。 - 羽島駅やインター周辺の整備をすることで、交通網や産業の発展を目指して、将来の羽島市の活性化を図っている。また、上下水道の整備や学校の耐震補強は、今、羽島市住民が早急に取り組んでほしい政策である。 3 住民からは様々な要望があるが、このような政策を優先しているのはなぜか、地域住民の意識や取組の重要性について考える。 - 市の財政には限りがあり、住民による市税が基本となっている。羽島市では、生活に密接にかかわること、将来に向けた投資的な施策を優先させている。 - さらに、「地域のことは地域の手で…」と地方分権を進め地域の独自性を高めるためにボランティア活動などの住民の協力を求めているのだ。 4 「学習のまとめと感想」を書き、本時の学習を振り返る。 - 羽島市では、財政の健全化を図りながら、住民に直接かかわることや将来の羽島市に向けた政策を優先的に行っている。地方分権によって、その地方に合わせて、住民の手で政治が進められようとしている。 - 少子高齢化社会によって、財政的な課題もみられる中で、住民の要望に応えられず、不便な面が出てくるのではないかと、心配な面もある。	- 財政の健全化と必要な事業への重点的な配分(羽島市公式 WEB サイト) - 地域の現状に対する評価 - 羽島市土地利用図【資料 4】 - 都市計画図、農業振興地域整備計画図 - 平成 20 年度会計別当初予算(羽島市) - 平成 20 年度一般会計当初予算の性質別内訳(羽島市) - 羽島市第五次総合計画 - 人口ピラミッド 以上の資料を教室に掲示し、交流の場で活用させる。 - 羽島市都市計画区域総括図 評価規準 - 羽島市政の動きを様々な資料を活用して調べ、地方自治体の政治が、住民の意思を直接反映するしくみで行われていることを、住民の立場で意見を書くことができる。 【資料活用・技能表現】 「平成 20 年度、市政懇談会の結果報告」から、重点施策と住民の意識を比較させる。

3 実践のまとめ

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能を定着させ、
地図を活用させるための指導を通して
・個に応じた指導・評価 (Aさん)

第1時「人々の意見を政治に生かす」の学習では、琵琶湖の環境問題や都市化の広がり、交通網の様子をとらえるために近畿地方の地図や琵琶湖の汚染状況の図を提示した。



Aさんは、琵琶湖の水質汚染の状況が、昭和55年から平成5年までは、次第に改善されてきれいになってきたが、その後の平成12年にかけて再び悪くなり汚染が広がっていることや、琵琶湖北部よりも南部の方が悪化していることに気付いた。その理由を、工業の発展時期や県庁所在地・大津市が位置し、交通網が集中する人口の多い都市部であることから考えた。

そこで、滋賀県の山地、河川、平野等が示された地形図を提示し、琵琶湖周辺の地形と川や湖の水の流れる方向に着目させた。Aさんは、琵琶湖周辺は、西部の比良山地、東部の鈴鹿山地、北部の伊吹山地の三方からいくつもの河川が琵琶湖に流れ込んでおり、南部の瀬田だけが琵琶湖から流れ出ていることに気付いた。その瀬田川は、京都盆地から大阪平野を通して、淀川として大阪湾に流れることから、標高の違いに気付いた。琵琶湖へ入ってくる汚染は、水の流れと一緒に一つだけの出口である南部に全てたまっていくことをつかんだ。

次に、滋賀県のPRポスター「Mother Lake 母なる湖・琵琶湖」を提示して、「滋賀県が琵琶湖をMother Lakeと

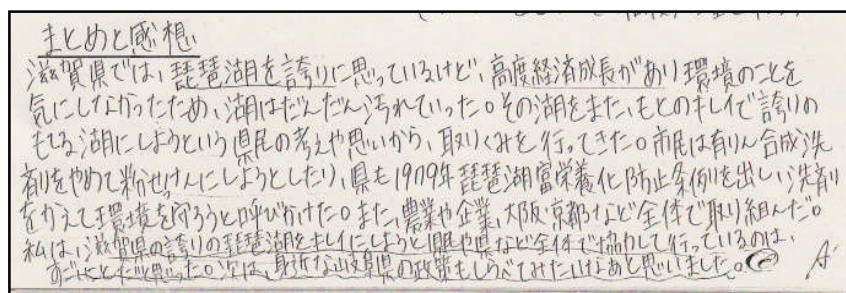
呼んでPRするのは、なぜか。」と課題を設定した。生徒は、美しい琵琶湖を観光名所としてアピールするために、県外に向けたPRであると予想した。Aさんは、琵琶湖の汚染の原因から、琵琶湖が滋賀県民の工業用水や生活用水として利用するから大切にしたいからと、滋賀県民に対するPRであると考えた。

そこで、「琵琶湖・淀川水系の水利用」の主題図を提示した。Aさんは、琵琶湖の水が瀬田川、



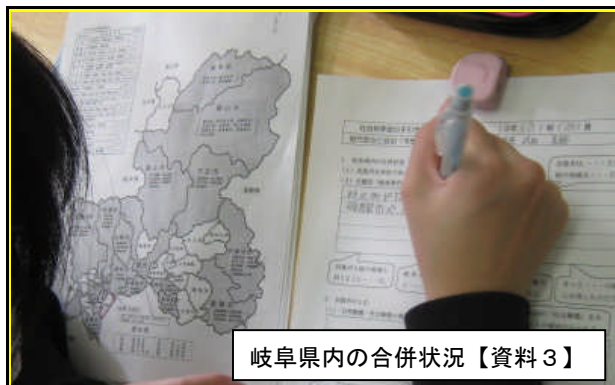
宇治川、淀川をすることで、滋賀県民だけでなく、京都や大阪の住民の水として、何度も利用されていることに気付いた。そして、琵琶湖の水は琵琶湖・淀川流域に住む1400万人の生活や産業で利用され、人々の生活を支えたり、工業や農業をつくりだしたりすることを考えた。このことから琵琶湖のある滋賀県が他県を支えている役割を担っているからこそMother Lakeと呼んで大切にしているのだと考えた。Aさんは、滋賀県庁が県内外へのPRポスターとして、環境保全の意識を滋賀県民全体に広め、滋賀県の地方自治の活動としたことを理解することができた。その後、環境保全のために、滋賀県はいつ頃から、どんな活動がされているのか、課題を設定して追究を進めた。

- (2) 社会事象の意味やかかわりを明確にしたり
人々の生き方を考えたりする指導を通して



- ・児童生徒の変容 (Bさん)

第 14 時「地方分権と住民参加」では、前時の地方自治体のしくみをもとに、「地方分権によって、羽島市ではどのような政策がすすめられるようになったのだろうか。」と問題を提起し、岐阜県の市町村合併状況の資料を提示した。



岐阜県内の合併状況【資料 3】

そして、ニュースや新聞記事、今まで聞いたこと等を手掛かりに、以下のような話し合いがされた。

- ・岐阜県内の市町村合併は、平成 15 年以降が多い。また、ほとんど大部分が合併しており、していない市町村は数えるほどしかない。
- ・飛騨市などの山間部の市はいくつもの村が集まりすごく広くなったこと、大垣市などの飛び地ができた市があること、長野県の山口村と合併した中津川市、世界遺産白川郷のある白川町は合併していない等、平野部や山間部、人々の生活圏、歴史や文化の違いから市町村合併が行われ、岐阜県独特の特徴がみられる。
- ・これは、過疎化、高齢化にともなう税収の少なさが合併した理由であり、反対に、人口が多く財政が豊かな市は合併していない。

B さんは、平成の大合併の波に乗って羽島市が岐阜市との合併を進めていたのに、最終的には合併せずに独自の路線を進み始めたことに興味をもった。その時の B さんの感想である。

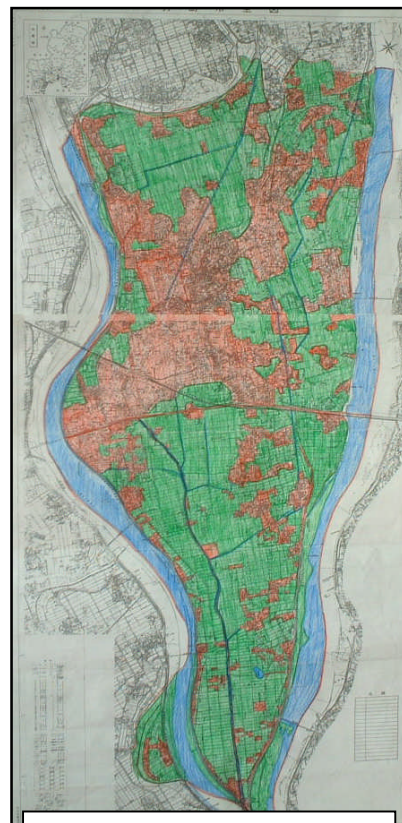
岐阜県南部は、合併していないところが多く、羽島市もその一つだけれど、北部は経済や人口の面で厳しいから合併しているところが多い。白川村は、税収が安定しているから、また世界遺産なので合併していない。羽島市が合併しなかったのは住民投票で決めたいけれど、合併しなければならないような財政じゃなかったからだと思う。もし今後、岐阜市との合併の投票があるのならば、私はどちらにするか決めかねると思う。合併したらゴミ処理場の問題

や地方税も多くなり、解決することが多くなると思う。けれど、今まで暮らしてきた羽島市の名前がなくなってしまうのは認めたくないという気持ち強い。これから先、もっと羽島市や岐阜市のことを知れば、考えが変わってくるんじゃないかなと思う。それぞれメリット、デメリットをきちんと吟味して、これからあるかもしれない住民投票に備えたい。

そして、羽島市の財政と施策について資料をもとに追究した。B さんは羽島市の財政や政策を調べるために、「広報はしま」、「平成 21 年度、一般、特別会計予算案」、「羽島市第五次総合計画」等の資料や羽島市の土地利用分布図を読みすすめた。

個人追究後に全体で交流し、羽島市の財政状況について話し合った。

- ・人口 7 万人の羽島市は、65 歳以上の老人の割合が最も多く、高齢化している。
- ・30～40 代の人口は 2 番目に多く、正木町や竹鼻町などの市の中心部の転出入が多く、人口が増え続けている。
- ・財政における歳入は、市税等の自主財源が 65%、市債等の借金が 15%、地方交付税等の依存財源が 20%である。
- ・歳出は、民生費、教育費、病院事業、中学生までの医療費無償化、老人保健、介護保険…など、福祉関係の費用が大半を占めている。
- ・次に、目に付いたのが、小・中学校の耐震化工事、小学校のプール改修費、岐阜国体にともなう運動公園整備費、河川や道路、羽島インターチェンジ整備等であった。



羽島市土地利用図【資料 4】

C さんは、羽島市の財源の歳出や歳入の内訳を読み取って、以下のように意見をまとめた。

わたしは、羽島市の財源をみて、道路の整備やバリアフリー化など子どもや高齢者も快適で安全に安心して暮らせる街づくりをしていることが分かりました。また、歳出の老人保健や介護保険から高齢者の暮らしも支えていることが分かったし、Dさんの意見から道路の整備などをすることで将来へ向けての基盤づくりをしていることも分かりました。歳出の教育費の割合が高いから教育にも力を入れている。

わたしは、羽島市の歳入は市税の割合が少なく、国庫支出金や市債などの国からのお金や借金が多いので、10年後は税金をしっかりと納めて、今よりも高齢者が増えると思うので高齢者を支えていきたいです。また、新しい課題とかこれから先、出てくると思うので自分たちにできることを考えていくことも大切だなあと思いました。

【Bさんの学習プリント】

Bさんは、仲間の話を聞きながら、羽島市の財政における歳入面に強く関心を持ち、以下のようにまとめた。

国からのお金に頼らない自立した地方自治ができているということなんだろうけど、それをなくしてしまうと数十億円もなくなってしまうので、まだまだ理想的な地方自治はできそうにないということが分かる。住民は国税を払うのではなく、どうせ返ってくるのだから最初から地方税にしておけばいいと思う。そう思ったけれど、やっぱり人口が少ないところにとっては不利だという点が否めない。どうにもむずかしい問題だけれども、一回過疎状態のところは多くの税金を貰って町おこしをするべきだと思う。町おこしをすれば、ある程度の税金は安定するから、自立的な地方自治ができるようになると思う。田舎は田舎だからしょうがないという考え方はやめて、本当の民主主義ができるようにしていくべきだ。

羽島市の場合、地方交付税などの依存財源をなくせば、76億円以上がなくなってしまうことになるので、自主的な地方自治ができていることが分かる。民生費に多くが使われているので住みよい街になるからいいことだと思う。わたしも将来はしっかりと税金を納めて市税を増やそうようにしたい。また、自分が納めているお金が何に使われるかぐらいは知っておきたいので、「広報はしま」などを見ておくようにしたい。どのような市になるのか楽しみな気持ちが強い。

1 平成21年度、羽島市の財政（予算と政策）から考えよう。

(1) 歳入は、699億5497円。歳出は、(779億2497)円。
一人当たり、約(567000)円。

(2) 歳入・・・ 1番は、(市税) ……(44.8) %
2番は、(地方交付税) ……(19.5) %
3番は、(国庫支出金) ……(8.5) %

(3) 歳出・・・ 1番は、(民生費) ……(28.5) %
2番は、(教育費) ……(14.0) %
3番は、(公債費) ……(13.5) %

(4) 歳入と歳出からみて、その特徴は？
自主財源が約半割を占めているので、国に頼りすぎているわけではないということが分かる。けれども依存財源が多くなると約76億2000万円を減ってしまうので、本当に依存したくないということが分かる。

(5) どんなことに市の財政を使っているのか？
一番多いのは民生費だが、住みやすい町にするための工夫がされているということが分かる。教育費と公債費が同じくらい多いので、民生費や教育を多くする方針がとられていることが分かる。また、インフラ整備のために低コストでの資金も多くなっていることが分かる。

(6) 財政からみると、羽島市はどんな街づくりをしようとしているのか？
福祉に力を入れているので、高齢者も住みやすく、更には子ども・障害者も住みやすいような町をつくらせていることが分かる。教育費の中には、プールの新築があるので、よりよい学習ができるようになっていっていることが分かる。

(7) あと10年も経てば、あなたも羽島市民として仕事をして、税金を納めて、羽島市の街づくりの一翼を担うことになります。あなたにできることを考えてみよう。
国に頼らないようにするには市税が大切になってくると考えらる。税金は必ず納めるようにしたい。羽島市をよりよい町に、にぎやかな町にするために税金を納め、貢献したい。また、自分の納めた税金が何に使われているのかを知りたい。市税と調べるようにしたい。

Bさんは、市の財政の歳出と歳入の内訳の資料を考えの根拠として、羽島市をみつめながら日本の地方自治の課題について考え、意見をもつことができた。また、羽島市民として将来の住民としての立場に立って考えることができた。

(3) 成果と課題、課題解決の方途

- ・単位時間の授業の役割や位置付けを行ったことで、資料活用・技能表現に焦点をあてた授業において、地図や分布図、主題図などの読み方と、それらの諸地図を選択、加工し、課題追究の根拠として活用できるように指導することができた。
- ・中学1年生の地理的分野「身近な地域」の学習における羽島市の学習と、中学3年生の公民的分野の「地方自治」の学習をかかわらせて、地図や諸資料を活用して、住民の一人として学習することができた。
- ・課題追究学習の小集団交流、全体交流では、個人追究の根拠として活用した地図や諸資料を提示しながら交流することができた。
- ・どの子にも、地図や諸資料を読み取り、自信をもって発言できるように、指導の工夫が必要である。的確な生徒の実態把握と、発言や発表方法のきめ細かい指導方法を確立させる。